

“美貌”と“健康”を望み通りに手にする方法

## 5 2. 医師がサジを投げた患者の“驚異の自然治癒力”

奇跡的な回復力は愛によって導き出される

---

ある女性が急性の心臓疾患で救急病院に運ばれてきました。手当てをした医師や看護師は「もうダメだ」と思いました。心電計はもう反応しないのです。形式だけの心臓マッサージが行なわれました。すると心電図にかすかな反応が出てきました。その後はみんなやる気になって看護し、その女性は奇跡的に助かったのです。

女性は医学的に信じられない行動を何度か示しました。たとえば血圧が極端に下がっていて、意識があるはずはないのに医師の白衣をつかんで「助けて」と言ったりしたのです。病院の人間はその生命力に驚嘆させられたと言います。後でわかったことですが、女性は病気の母親を抱えていて「いま死ぬ」わけにはいかなかったのです。

似た話をマーフィー博士が報告しています。街路で心臓発作で倒れ、救急車で病院に運ばれてきたその男は、誰の目にも助からないと映りました。意識はあったので医者は率直に「二、三時間以上は持たないでしょう」と患者に言いました。

そう知らされた患者は必死にこう言ったというのです。「先生、私はまだ生きなきゃならないのです。二人の息子が私を必要としているからです。私は死ぬつもりはありません」

そして、この男は入院後十日で正常な心臓機能を回復し、退院しました。生への強い意志を持つ人は、自己の内部から、とてつもない回復力を引き出すようです。博士は「建設的なビジョンが彼を持ちこたえさせ、強い愛情が彼の全身を変え、再び丈夫に完全にした」と言っています。

ここで注目すべきことは、二人とも強い愛情の対象を持っていたことです。この事実は必ずしも自分の命に執着したのとは違うことを物語っています。もし自分が生への妄執から「死にたくない」と思ったのでは、これほどの自然治癒力は生まれなかったのではないのでしょうか。

自分が生きたいのは、強い愛の対象が存在するためだったのです。ご紹介した例は、たまたま愛の対象が自分の家族になっていますが、この考えを拡大していけば人類への愛情へとつながります。つまり外へ向けられた愛情が、偉大なパワーを発揮すると考えられるのです。人のために尽くすことが、いかに自分の命や健康にとって有益か、これでおわかりになると思います。

マーフィー「お金」と「幸せ」の法則 ジョセフ・マーフィー・インスティテュート編